

WEL・NET

通信



2022.5

発行日 令和4年 5月 1日
発行 西広島リハビリテーション病院
事業局
☎ 082-921-3230 (代表)
URL <http://www.welnet.jp/>
E-mail wel@welnet.jp

- 表紙・特集 一点深掘り2021 発表会
- 地域リハビリ研修会2021
- 朋和会ニュース・研究実績・歯科衛生士のご紹介

WELNET 通信は、西広島リハビリテーション病院の地域リハビリ・地域連携に関わる活動をご紹介する広報誌です

窒息予防に向けた ミールラウンド

西館2階病棟では、一点深掘り活動（質向上活動）の一環として、摂食嚥下サポートチームによる患者さんの食事観察「ミールラウンド」を開始しました。

▶▶▶ 詳しくは p.3 へ!



言語聴覚士

看護師

管理栄養士

歯科衛生士



医療法人社団朋和会

西広島リハビリテーション病院

2021 発表会 一点深掘り

「一点深掘り」とは、当法人の質向上活動のことです。多職種や委員会などでチームを結成し、日頃の業務の中にテーマを見つけ、問題点を調査・分析して、対策を検討します。試行錯誤を繰り返し、一点を深く深く掘り下げていくと、今まで見えなかった解決方法が見つかることがあります。

平成19年度から始まったこの活動も、2021年度で14回目となりました。今年度も全13チームが業務改善やサービスの質の向上に取り組み、発表会にてその成果を披露してくれました。特に斬新なテーマが評価された活動について、ここに紹介させていただきます。



チーム花4 (介護老人保健施設 花の丘4階)

そのセンサー本当に必要???

～評価表、始めてみました～



テーマの選定 介護老人保健施設花の丘では、利用者さんの転倒・転落を防止するため、センサーコール（利用者さんの離床を感知して知らせる機器）を設置しています。しかし最近センサーコールの設置数が多くなり、コールが重なった際にすぐに対応できない可能性が出てきました。そこで、評価や安全対策の再検討を行い、センサーコール設置数を見直すことにしました。

深掘りポイント センサーコールの設置目的をスタッフ室に掲示し、職員の意識向上を図りました。また、安全対策を検討する各種シートや評価表について、修正と試用を繰り返してリニューアルしました。

成果と効果 新しい評価システムが確立し、不要なセンサーコールの除去や、より適切な対策の検討が進みました。また、職員がセンサーコールの設置目的を把握し、統一認識のもとで安全対策について検討できるようになりました。



チーム花4の皆さん。フロア全体で取り組み、見事に総合評価1位を獲得しました！▲

チームかけし (地域連携部)

災害発生! 訪問リハビリ時だったらどう動く?

～災害時避難訓練を実施して～



テーマの選定 広島は土砂災害の危険性が高い地域です。当訪問リハビリでは2020年に、希望される利用者さんに対して避難訓練を実施しました。今年はそれをもう1歩進めて、全利用者さんに対して災害対策を実施することにしました。

深掘りポイント 「災害時に外部へ避難する」を選択した13名に対しては、避難場所への避難訓練（またはシミュレーション）を実施しました。「避難しない」を選択した99名に対しては、自宅の環境チェックを行いました。家具が転倒する可能性がある（約6割）、災害時の備蓄がない（約9割）などの課題が見つかりました。電気を使用する医療機器や福祉用具の備えについても利用者さんに説明しました。

成果と効果 全利用者さんに対する災害対策の実施が完了し、今回確立した方法を使って今後も活動を継続していくこととなりました。スタッフもこの活動を通して、災害対策に詳しくなりました。



▲利用者さん・ご家族と一緒に行った避難訓練の様子。避難経路は想定した以上にバリアが多く、歩行可能な方でも車いすが必要になる場合もありました。

転倒予防サポーターズ (西2階病棟)

転倒・受傷予防に向けた西2階での取り組み



テーマの選定 2020年の転倒・傷害事故のほとんどが患者さんの自室内で起こっていることを受け、転倒ゼロに向けた対策を検討することになりました。

深掘りポイント 転倒予防対策（転倒を防ぐ対策）として、転倒ラウンド、身体・認知面での転倒リスクの把握、自室内行動チェック表による実際の動作と環境の評価などを行いました。前年から引き続きの活動でしたが、今年度は特に職員間の周知徹底と情報共有に注力しました。また、傷害予防対策（転倒しても大きな傷害に至らないようにする対策）として、内服や骨密度などの医療的リスクについての職員への啓発や、緩衝マット等の環境整備を行いました。

成果と効果 転倒・傷害予防対策が病棟スタッフに浸透し、実際に転倒件数が減少しました。今後は患者さんにも転倒を防ぐ取り組みを知っていただき、退院後のご自宅での転倒事故減少へつなげていくことを目指します。



▲転倒ラウンドを行って、患者さんの自室内の行動と環境を定期的に評価しています。危険性が高いと判断された点は担当のチームスタッフへ伝達し、検討・修正を促します。

西2階摂食嚥下サポートチーム

窒息予防に向けたミールラウンド



テーマの選定 窒息事故を防ぐためには、日頃から患者さんのお食事の様子を観察し、普段と違う危険な兆候があればいち早く気づくことが大切です。西2階病棟では、2021年4月に発生した窒息事故を受け、職員の食事観察に対する意識とスキルの向上を急務と考えました。そこで、リハビリ・看護介護・栄養・歯科のスタッフからなる摂食嚥下サポートチームを発足し、患者さんの食事観察を行う「ミールラウンド」を開始することにしました。

深掘りポイント 多職種が同じ基準で観察・評価できるよう、チェックシートを作成しました。このシートを用いてミールラウンドを実施し、情報共有・対応の検討を行いました。

成果と効果 食事中のムセがみられた患者さんに対して、当日中に食事観察・対策の検討、環境調整や食形態の変更まで至った例もみられるようになりました。職員の食事への意識が向上し、チーム内での情報共有と対応が円滑に行えるようになりました。

食事の評価		①の咬食支持数を含め、②部分に✓が入った場合は、	
サマリーなどの情報から選択した食形態	主食()回	平均()回	
食べ方の観察	咀嚼回数	<input type="checkbox"/> 上下運動のみ	<input type="checkbox"/> 左右運動あり
	咀嚼時の頭の動き	<input type="checkbox"/> 多い	<input type="checkbox"/> 普通
	一口量(スプーン1杯程度)	<input type="checkbox"/> 頻回にある	<input type="checkbox"/> 時々ある()
	むせの有無	<input type="checkbox"/> 崩れなし	<input type="checkbox"/> 崩れるが修正あり
問題がある場合 口腔内残渣を 確認:	ペース	<input type="checkbox"/> 飲み込んでから次を入れている	
	溜め込み	<input type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> なし
	覚醒状況	<input type="checkbox"/> 清明	<input type="checkbox"/> 時に意識不明

▲ミールラウンドチェックシートに、確認すべき食事観察の項目を細かく記載しています。

地域リハビリ研修会



2021年11月～2022年1月に実施した地域リハビリ研修会です！

当院は **地域リハビリテーション広域支援センター** です！

当院は、地域におけるリハビリテーション支援体制を推進するための施設として、広島県から指定を受けています。地域リハビリ活動の一環として、地域リハビリ研修会を年に数回開催している他、出前リハビリ講座の実施、広報誌やホームページ、退院患者統計での情報発信などを行っています。

全3回
シリーズリハビリ用語
解説します！！

検査・評価の巻

リハビリ用語を分かりやすく説明をすることはなかなか難しいものです。今年度は地域の皆様の生き生きとした生活を支えるケアマネジャー・ヘルパーの方を対象に、リハビリ用語についての講座を全3回シリーズで開催しました。リハビリ用語の解説を通して検査の種類や方法、重要性を知り、介護度や生活環境に応じたリハビリテーションサービスの向上へと繋げていただけましたら幸いです。

1 身体・運動機能の用語

2 精神・高次脳機能の用語

3 摂食嚥下機能の用語



講師： 理学療法士 芦澤 建太
理学療法士 松四 健太
受講者数： 24名

参加者の声

- 今回の研修で学んだBRS、TUGについて、今後LIFEなどを使うことになったときに役立つと思いました。
- BRSのそれぞれの評価がどのような意味を持つのか理解できました。
- リハビリの専門用語とその評価の具体的な内容を知ることにより、利用者さんをイメージしやすくなりました。
- リハビリ計画書の見方や内容がわかってよかったです。

地域リハビリ研修会
No.120

1

身体・運動機能の用語

2021.11.10 (水) 13:30～14:00



▲ BRSの動作の一例をご紹介します。

シリーズの初回は、身体・運動機能の用語について、リハビリテーションサマリーと計画書の評価項目や検査方法、目標と評価の繋がりについて解説しました。それぞれの評価の持つ定義や意味を知ることにより、転倒・寝たきりの予防、病気の早期発見などにお役立ていただけましたら何よりです。クイズを交えたり、患者さんの事例を身近な周辺地図や写真を使って説明したりするなど、親しみやすい雰囲気の講義となりました。

地域リハビリ研修会
No.121

2

精神・高次脳機能の用語

2021.12.8 (水) 13:30～14:00



▲ 当院のケアマネジャーも受講しました。

シリーズ2回目は、精神・高次脳機能の用語について解説しました。ケアマネジャーさんからの「高次脳機能障害と認知症の違いが分かりにくい」との声から、はじめにその2つの違いを説明し、事例などを使って検査の説明をしました。高次脳機能障害の症状のひとつであるコミュニケーション障害については、言語聴覚士と患者さん役のスタッフによる再現動画でご紹介しました。用語だけでなく検査や評価の大切さにも着目した講座となりました。

地域リハビリ研修会
No.122

3

摂食嚥下機能の用語

2021.1.12 (水) 13:30～14:00



▲ 反復唾液飲み検査の方法を実演しました。

最終回は、「摂食嚥下機能」に関する用語について解説しました。リハビリテーションサマリーの嚥下障害項目のグレードの意味や摂食嚥下のメカニズムを、イラストを使って解説しました。動画で患者さんのお食事や飲み込みの様子を見ながら、摂食嚥下障害や誤嚥とムセのしくみを説明しました。水分でムセる場合のとりみづけのコツについては身近な食材を例にしてお話ししました。嚥下の変化に気づき、医療機関へ相談するきっかけにさせていただきましたら幸いです。

2021年度はオンライン開催でしたが、累計61名のケアマネジャーや介護施設関係者の皆さんにご参加いただきました。今後も地域の皆さんの生活に役立つ講座を開催してまいります。

講師： 言語聴覚士 山内 温子
作業療法士 吉田 明広

受講者数： 35名

参加者の声

- 高次脳機能障害と認知症の違いについての説明がわかりやすかったです。
- MMS Eは認知症と高次脳機能障害をスクリーニングする検査ということを知りました。
- リハビリの代償手段についてや関わり方が具体的で参考になりました。
- 失語症と構音障害の違いについて理解できました。



講師： 言語聴覚士 荻原 幸恵

受講者数： 25名

参加者の声

- 嚥下の仕組みや嚥下障害を引き起こす要因がわかりました。
- 嚥下の状態を動画で見ることができたのでムセない誤嚥がどんなものかよくわかりました。
- サマリーの見方やとろみの粘性などについて参考になりました。
- 舌圧測定や反復唾液飲み検査など、今後の支援に役に立ちそうです。



3 MAR 2021.3～ リハガーデン・ミニファーム

ウェルネット・リハガーデンの訓練コースの外に、小さな畑があります。リハガーデン完成時に敷地が余ったため、防災センター職員の提案によって作られました。

1年前から、敷地内に落ちる落ち葉を再利用して腐葉土を作る試みを始めました。今年は春からきゅうり・トマト・ナス・かぼちゃなどを植え付けています。



リハガーデンの奥にあります。



堆肥箱に集められた落ち葉。腐葉土として生まれ変わり、新しい実りへつながっていきます。

▲ 腐葉土と自家製堆肥を混ぜて、柔らかい土ができました。耕して畝を作っています。
▲ 昨年はびびよ園の園児と玉ねぎやサツマイモの収穫を行いました。(写真は収穫前の玉ねぎ)

11 NOV 2021.11～ 口腔機能訓練 パンフレット作成

患者さん・ご家族向けに、口腔機能訓練パンフレットを作成しました。ご自宅でもできる簡単なトレーニングを多数掲載しています。西リハ情報箱からもご覧いただけます。



▲ 舌の先を頬の内側に当て、頬をしっかりと外側に膨らませるように上から下に動かす (舌体操より)
▲ ブローイング: 「強く吹く」「弱く長く吹く」を交互に行う (呼吸負荷トレーニングより)

10 OCT 2021.10 資格取得・受賞

クオリティ マネジャー

公益財団法人
日本医療機能評価機構

病院が良質な医療を提供できるよう、院内の質評価・質改善活動の推進役として中心的な役割を担う人材として認定されました。(2021.10.1 認定)



作業療法士 (教育部門会議主任)
白岡 幸子

学会大会賞

第3回ステイミュレーションセラピー学会学術大会

研究発表「ボツリヌス療法による大脳皮質活動へ与える影響」が優れた内容であると認められ、学会長賞を授与されました。(2021.10.21 受賞)



作業療法士 (主任)
玉代 浩章

12 DEC 2021.12 クリスマスミニコンサート

毎年恒例の音楽療法士によるクリスマスコンサートですが、今年はコロナ感染対策のため、病棟ごとのミニコンサートとして開催しました。



音楽療法士 大瀧 智陽



▲▶ クリスマスにちなんだ曲を演奏しました。患者さんとスタッフも、歌う代わりにいろいろな楽器で共演して盛り上がりました。

※ オンライン・オンデマンド・Web 研修など ※ 医師やスタッフの肩書き/氏名は掲載時点のものであり、現在は変更している可能性があります。
※ DR:医師 PT:理学療法士 OT:作業療法士 ST:言語聴覚士 RM:リハビリマネージャー NS:看護師 CW:介護福祉士 CP:公認心理師 RD:管理栄養士

外部講演

- 2021.11.8 地域包括ケア病棟協会・回復期リハビリテーション病棟協会 第3回合同シンポジウム セルフケアの自立支援に着眼した介護～多職種によるチームアプローチを行って～ 山田 邦彦 (CW・主任)
- 2021.11.12 第5回 日本リハビリテーション医学会秋季学術集会 シンポジウム2 回復期リハビリテーション病棟におけるクラスター感染とその対策 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2021.11.28 CORABOSS #10 脳卒中リハにおける運動療法・器具・治療デバイスの活用と学術背景「器具・治療デバイスの活用とそのエビデンス」 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2021.11.22 第25回 広島県理学療法士学会 回復期病棟の理学療法士が考える LIFE 中臺 久恵 (PT・副主任)
- 2022.1.13 令和3年度 第2回 QM実践事例共有会 みんなで取り組む感染対策 2020 白岡 幸子 (OT・教育部門会議主任)
- 2022.1.14 西三河産科治療連携セミナー 生活期リハビリテーションにおける産科治療 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2022.1.29 令和3年度 職能・調査部 医療保険部門研修会 「運動量増加機器加算について考える」 上肢訓練支援ロボット (ReoGo®-J) を用いたリハビリテーション 田中 直次郎 (PT・リハビリ部長)
- 2022.2.5 回復期リハビリテーション病棟協会第39回 研究大会 in 東京 ランチョンセミナー A 回復期リハビリテーション病棟における産科治療 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2022.2.16 職員やりがい度活用支援セミナー ～コロナ禍における人材定着と人材育成～ 質改善の取り組みと人材育成 ～「理念教育」と「リスク対応」を中心とした職員教育～ 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2022.2.20 令和3年度 第5回 生活期リハビリテーション医療にかかわる医師のための研修会 (初級) 地域における医師の診療と多職種協働 岡本 隆嗣 (DR・病院長)

学会発表

- 2021.11.18 リハビリテーション・ケア合同研究大会兵庫 2021 Pusher 症状を呈した重度片麻痺患者に対するトイレ動作の介助量軽減に向けたアプローチ 中島 蓮 (PT) / 藤井 琢磨 (PT・副主任) / 福江 亮 (PT・RM) / 松下 信郎 (PT・主任) / 田中 直次郎 (PT・リハビリ部長) / 荒川 良三 (DR) / 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2021.12.18 第19回日本神経理学療法学会学術大会 in いわて 頸髄損傷患者に対し疾患特異的な評価と段階的な目標設定・介入を行った結果歩行自立・自宅退院に至った症例 東 佳奈子 (PT) / 中臺 久恵 (PT・副主任) / 松下 信郎 (PT・主任) / 田中 直次郎 (PT・リハビリ部長) / 高江 政志 (DR) / 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2022.2.4-5 回復期リハビリテーション病棟協会第39回研究大会 in 東京 ともみ自動調理器®の使用が奏功し、経口摂取に至った覚醒障害を伴う左構梗塞患者 山内 温子 (ST・副主任) / 渡邊 光子 (ST・副主任) / 田中 直次郎 (PT・リハビリ部長) / 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 自宅退院に向けて嚥下調整食やとろみの指導を行った摂食嚥下障害患者のその後の摂取状況について 渡邊 光子 (ST・主任) / 今橋 郁美 (ST・主任) / 坂根 亜紀 (NS) / 河田 裕子 (NS) / 折出 由起 (DH) / 尾川 直子 (DH) / 新田 智恵 (DH) / 中西 彩佳 (RD) / 影山 典子 (RD・栄養課長) / 岡本 隆嗣 (DR・病院長)

- 2022.2.4-5 回復期リハビリテーション病棟協会第39回研究大会 in 東京 ハルーン法の実施回数が食道入口部通過障害改善に影響を及ぼした症例 福田 あかり (ST) / 山内 温子 (ST・副主任) / 渡邊 光子 (ST・主任) / 田中 直次郎 (PT・リハビリ部長) / 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- コロナ禍の自宅退院に向けた家族指導～情報共有ノートの活用～ 田中 詩歩 (OT) / 久留嶋 崇史 (OT・副主任) / 玉代 浩章 (OT・主任) / 丸田 佳克 (PT・RM) / 田中 直次郎 (PT・リハビリ部長) / 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 片麻痺患者の肩関節亜脱臼と夜間痛に対しアームホルダーが有効であった症例 岩本 友香 (OT) / 久留嶋 崇史 (OT・副主任) / 玉代 浩章 (OT・主任) / 漆谷 直樹 (OT・RM) / 田中 直次郎 (PT・リハビリ部長) / 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 既往に脳卒中片麻痺を有する大腿骨頸部骨折後患者に対する自宅退院後の転倒予防に向けた多角的な評価とアプローチ 一症例報告 鶴田 晃啓 (PT) / 丸田 佳克 (PT・RM) / 芦澤 建太 (PT・副主任) / 松下 信郎 (PT・主任) / 田中 直次郎 (PT・リハビリ部長) / 岡田 昌信 (DR) / 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 構梗塞による複視、眼球運動障害により歩行時に患側眼帯の使用が必要であった症例に対する治療経験 田房 夕奈 (PT) / 丸田 佳克 (PT・RM) / 芦澤 建太 (PT・副主任) / 松下 信郎 (PT・主任) / 田中 直次郎 (PT・リハビリ部長) / 前城 朝英 (DR) / 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- ICFに基づいた看護介護過程の展開 永見 茜 (NS・看護師長)
- ICFに基づいた看護介護計画の実践 井村 太治 (CW・主任)

専門雑誌・書籍

- 2022.1.11 Frontiers in Neurology (www.frontiersin.org) Transitional and Long-Term Care System in Japan and Current Challenges for Stroke Patient Rehabilitation Shoji Kinoshita 1 / Masahiro Abo 1 / Takatsugu Okamoto 1.2 / Kohei Miyamura 1.3
1 Department of Rehabilitation Medicine, The Jikei University School of Medicine, Tokyo, Japan
2 Department of Rehabilitation Medicine, Nishi-Hiroshima Rehabilitation Hospital, Hiroshima, Japan
3 Department of Rehabilitation Medicine, Kawakita Rehabilitation Hospital, Tokyo, Japan
- 2022.1.28 回復期リハビリテーション病棟機関誌 2022年1月号 第20巻 第4号 pp.16-18 多職種協働で支える長期的な在宅継続支援 本田 賢次郎 (PT・西リハ訪問リハビリテーション所長)
- 2022.3 老健ひろしま (広島県老人保健施設協議会) 第22号 March 2022 pp.16-17 ちょっと聞いてよ!施設自慢 医療法人社団朋和会 介護老人保健施設花の丘 吉野 高博 (事務・統括本部長) / 岡本 佳子 (医療相談員・医療福祉部副部長)
- 2022.3.15 リハビリテーション医学・医療コアテキスト 第2版 pp.58-62 通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション 脳血管障害 生活期、頭部外傷 (外傷性脳損傷)、高次脳機能障害 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2022.4 Journal of CLINICAL REHABILITATION Vol.31 No.4 2022.4 pp.337-346 特集 今後の回復期リハビリテーション医療はどうあるべきか! 回復期リハビリテーション病棟における医師の役割 岡本 隆嗣 (DR・病院長)
- 2022.4 回復期リハビリテーション病棟機関誌 2022年4月号 第21巻 第1号 (印刷中) p.3 巻頭言 回復期リハ病棟の進むべき道 チームの総合力で重症者対応を 岡本 隆嗣 (DR・病院長)

！ 紹介！

歯科衛生士

当院では3病棟に1名ずつ歯科衛生士が配属され、主に摂食機能障害のある患者さんに対する口腔ケアを担当しています。

ー 歯科衛生士の仕事は？

折出 入院された全患者さんに対して、入院当日に口腔内の評価を行います。入院中は肺炎のリスクが高い方を中心に、毎日ブラッシングや嚥下機能向上のための体操指導などを行っています。

尾川 経管栄養の患者さんなどは、口の機能が低下しているため口腔内に細菌が増えやすく、肺炎のリスクが高いです。このため、歯科衛生士の専門的なケアが必要と考えています。
新田 また、そういう方がスムーズに経口摂取に移行できるように、口腔内の環境を整えるということも重要だと思っています。

ー チーム医療について

折出 多職種で仕事をするのは楽しいですね。いろ



いろな視点の意見が聞けて参考になります。

ー 心掛けについて

折出 口の中を触られることに抵抗のある患者さんもうらっしゃいます。デリケートな部分のケアなので、声掛けをして、不快でないケアとなるよう心掛けています。

尾川 汚れをしっかりと取るために、ライトを当てて、口の中を隅々までよく見るようにしています。

新田 口元に触れた感じや口の中の乾燥などから、体調の異常を見つけられることもあります。毎日のちよつとした変化を見逃さないよう、気を付けています。

医療法人社団朋和会 基本理念

信じ合い、明日を拓く

私たちは「信じ合い、明日を拓く」という言葉を基本理念としております。

「信じ合う」という言葉は、患者さんと職員との信頼関係とともに、職員間の信頼関係をも含んでおります。理想的なリハビリテーションは、ひとりの患者さんを中心に全スタッフが取り組むチーム医療が原点です。たしかな信頼関係のもと、全職員が心をひとつにして治療に取り組めばそこには安心感が生まれ、患者さんに、より大きなご満足をいただけるものと信じております。

「明日を拓く」という言葉は、現状に満足することなく未来へ向けて挑戦したいという私たちの願いです。超スピードで進化する医学の流れをしっかりと見定め、フロンティア・スピリッツを胸に、どんな困難にも立ち向かっていきたいという気持ちをこの言葉で表現しました。

「信じ合い、明日を拓く」この言葉をいつも大切に考え、患者さんやご家族の皆さん、受診者の皆さんにご奉仕し、地域社会の発展に寄与していきたいと心より願っております。

医療法人社団 朋和会
初代理事長 岡本則昭

医療法人社団朋和会 西広島リハビリテーション病院

〒731-5143 広島市佐伯区三宅6丁目265番地
TEL : (082) 921-3230 (代表)
FAX (082)921-3237 E-mail wel@welnet.jp
URL <http://www.welnet.jp/>

★ 理事長・病院長：岡本 隆嗣



★ 広島中心部より車で約30分 ★ 広電楽々園駅より車で約10分 ★ JR五日市駅南口よりバスで15分

